

令和2年1月29日

大学院総合文化研究科  
国際交流・留学生委員会委員長 殿

大学院人文社会系研究科  
国際交流委員会委員長

東京大学とローマ大学「ラ・サピエンツァ」との間における  
全学協定の更新について（依頼）

本研究科ではローマ大学「ラ・サピエンツァ」との全学協定の更新を計画しております。  
つきましては、この度の更新を期に貴部局にも関係部局として新規にご参画いただきたく、よろしくご検討くださいますようお願いいたします。

なお、ご協力いただける場合には、村松真理子教授に幹事教員をお引き受けいただくことの内諾を得ていることを申し添えます。また、別紙「国際交流協定更新のための実績報告書」（案）の「5. これまでの交流実績、成果等」と「7. 更新後の交流計画」について、貴部局における交流実績や今後の計画がありましたらあわせてお知らせください。

何卒よろしくお願いいたします。

## 国際交流協定更新のための実績報告書

提出年月日:

担当部局: 人文社会系研究科

1.相手大学(機関)			
名称	日本語	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	
	英語	"Sapienza" University of Rome	
	当該国語 ※任意		
地域/国名	ヨーロッパ	イタリア	
設立年	1303	年設立	
設置形態	国立		
組織及び規模(学部・研究所、学生・研究者の数等)	11学部63学科、59図書館、21博物美術館、教員職員数19,631、学生数111,934(2013-14年)		
相手国内における大学(機関)としての評価	ポローニャ大学やパドヴァ大学などともにイタリアの代表する総合大学のひとつ。人文学の分野では、とくに、考古学、古典古代文学、イタリア文学、ロマンス系諸言語などに秀でる。		
その他 (特色等があれば記入)			
2.協定の内容			
協定(覚書)の種類			
全学協定	関係部局: 総合文化研究科		
	締結年月日:	1999/4/30	最終更新年月日(該当のみ): 2014/5/30
▼協定の種類	関係部局:		
	締結年月日:		最終更新年月日(該当のみ):
交流分野			
人文学、社会学、工学など、相互に関心を有する分野			
交流内容(該当するものに○)			
学生交流		講義、講演、シンポジウムの実施	○
教員・研究者交流	○	学術情報及び資料の交換	○
職員交流		その他	○ →(研究プログラムへの参加)
単位互換			
ダブル・ディグリー		→取得できる学位の種類:	
ジョイント・ディグリー		→取得できる学位の種類:	
共同研究			
受入に伴う奨学金支給			
授業料相互不徴収		→人数(年):	
3.実施責任体制(組織、担当教員名及び構成メンバー等)			
責任者: 大西 克也(人文社会系研究科長、教授)			
幹事教員: 浦 一章(人文社会系研究科欧米系文化研究専攻 教授)			
村松 真理子(総合文化研究科地域文化研究専攻 教授)			
4.相手側の対応組織(担当教員名等)			
責任者: ステファノ・アスペルティ(文哲学部長、教授)			
幹事教員: マティルデ・マストランジェロ(文哲学部、東洋研究学科、教授)			

<b>5.これまでの交流実績、成果等</b>	
<p>最近5年間に、ローマ大学「ラ・サピエンツァ」側では、マティルデ・マストランジェロ教授およびルーカ・ミラージ准教授が交流の主体となってきた。マストランジェロ教授は東京大学の図書を度々利用して、三遊亭圓朝や森鷗外に関する調査を行ない、2018年度に定年退職された長島弘明教授(大学院人文社会系研究科)と意見交換を行なってきた。また、ミラージ准教授も総合図書館が所蔵する鷗外文庫を頻りに利用して研究を進めてきた。また、2019年1月6日～31日まで総合文化研究科において文献学に関する集中講義を行った。他方、東京大学側では、長島教授が2013年10月に『雨月文学』に関する講演を「ラ・サピエンツァ」で行なわれたほか、マッテーオ・ルッチ氏の博士論文に助言をされた。また、2016年には、日向太郎准教授(当時)(大学院総合文化研究科)が、やはり「ラ・サピエンツァ」において講演を行ない、文学と歴史の絡まり合いについて論じた。「ラ・サピエンツァ」と東京大学の学生交流に関しては、村松真理子教授(大学院総合文化研究科)が窓口として大きく貢献された。</p>	
<b>6.更新理由</b>	
<p>ローマ大学「ラ・サピエンツァ」文哲学部のマティルデ・マストランジェロ教授(日本文学専攻)より更新を希望する連絡があった。ローマ大学「ラ・サピエンツァ」側の仕組によれば、全学協定の上に部局覚書を重ねる仕方で学術交流を行なうことになっているため、東京大学との全学協定、および本学大学院人文社会系研究科-ローマ大学「ラ・サピエンツァ」文哲学部間の部局覚書の両方を更新しなければならない。マストランジェロ氏は、ご自分の専門に関する分野においては、1) 文学研究の方法(「いかに出展・材源を発見し、保存するか」、「いかに翻訳するか」等の問題も含めて)、2) 外国語の教育・学習の仕方、3) 「古典文学」の概念、などの点で意見交換・情報収集を希望している。また、ローマという古典古代以来の首都に位置した大学との学術交流協定は、本学にとっても、裨益するところ少なくはないと予想される。とりわけ、人文社会系研究科に関する部分では、イタリア文学、ロマンス系言語文学、美術史、考古学、歴史学等の分野で、多くの学ぶべきことが残されていると思われる。</p>	
<b>7.更新後の交流計画(具体的に記入)</b>	
<p>ローマ大学「ラ・サピエンツァ」側からは、引き続き日本語・日本文学の分野における交流が進められるほか、日本史、中国文学、仏教学、東洋哲学における新たな交流が拡大する可能性があろう。本学からは、ローマ大学「ラ・サピエンツァ」における資料収集および情報交換、講演等を進めてゆきたい。東京およびローマにおいてシンポジウムを開催し、教授や大学院生らの参加を募り、文学研究の方法を比較検討してゆくことが考えられている。新領域創成科学研究科、溝川貴司准教授(当時)が2014年5月から3か月間、ローマ大学「ラ・サピエンツァ」物理学科の客員教授として招聘されており、この事実は自然科学の分野における今後の交流に期待を抱かせる。</p>	
<b>8.資金</b>	
これまでの利用資金	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」は大学運営費の一定額を国際交流に割り当て、研究者の在外研究を支援している。また、国際交流基金を活用する場合もあった。本学では日本学術振興会の科学研究費を可能なかぎり利用して来た。
今後の資金計画	これまでと基本的に同じ資金を利用することになる。
<b>9.その他特記事項</b>	
特になし	
<b>10.部局事務担当</b>	
部局名:	人文社会系研究科
係名:	大学院係
Email:	in@l.u-tokyo.ac.jp

**MEMORANDUM ON EXTENSION OF  
THE GENERAL AGREEMENT OF CULTURAL AND  
SCIENTIFIC COOPERATION  
BETWEEN  
THE UNIVERSITY OF TOKYO (JAPAN)  
AND  
“SAPIENZA” UNIVERSITY OF ROME (ITALY)**

With reference to the General Agreement of Cultural and Scientific Cooperation expired on 29 May 2019, The University of Tokyo, represented by its President, and “Sapienza” University of Rome, represented by its Rector, agree on its renewal for a further period of five (5) years till 30 May 2024.

Drawn up in two original copies in English, having the same legal validity.

The University of Tokyo

“Sapienza” University of Rome

---

President GONOKAMI Makoto

---

Rector GAUDIO Eugenio

Tokyo,     /     / 20

Rome,     /     / 20